

日本組織会計学会 第4回全国大会（2021年度）開催記録

塘 誠（成城大学）

日本組織会計学会 第4回全国大会を、2021年11月13日（土）～14日（日）の日程で成城大学にて開催した。

初日の11月13日は、開催に先立ち、12：00～12：40に役員会ならびに、13：00～13：20に会員総会を開催した。そこで、学会賞が以下の各氏に授与された。

論文賞：青木章道氏（専修大学）、目時壮浩氏（早稲田大学）

奨励賞：東壯一郎氏（千葉工業大学）、吉岡勉氏（東洋大学）

引き続き、13：20～16：30まで統一論題を座長の島吉伸氏（近畿大学）のもと開催した。テーマは、“Management Accounting for Healthcare”であった。これは、英文書vol.18の執筆者による報告である。最初に、報告者3名による報告が行い、その後、フロアからの質疑を中心に討論を行った。報告者とタイトルは、以下の通りである。

第1報告 松尾貴巳（神戸大学）・新井康平（大阪府立大学）

「医療機関におけるコスト情報と管理 ―整形外科手術コストの
分析事例―」

第2報告 阪口博政（金沢大学）

「日本の医療システムと病院マネジメントの概要―医療の質の
観点から管理会計システムの導入状況に焦点を当てて」

第3報告 梅田宙（高崎経済大学）

「病院における原価計算の活用実態
―影響システムと情報システムの観点からの考察―」

2日目の11月14日午前（10：30～12：00）は、2名の自由論題報告を行った。司会は、井岡大度氏（国士舘大学）で、報告25分、質疑15分で行った。報告者とタイトルは、以下の通りである。

第1報告 平山睦喜（広島大学大学院・博士課程後期）

「日本企業のインタangible資本の情報開示、財務パフォーマンスおよび
コーポレートガバナンスの関係性に関する考察」

第2報告 明珍儀隆（明治大学大学院・博士課程後期）

「制度論に基づく管理会計チェンジ研究に関する文献レビュー：
管理会計体系による分類」

2日目の11月14日午後（13：00～15：20）は、3名の自由論題報告を行った。司会は、尾畑裕氏（一橋大学大学院）で、報告25分、質疑15分で行った。報告者とタイトルは、以下の通りである。報告者はいずれも、英文書vol.19の執筆者であり、査読を兼ねて行われた。

第3報告 挽文子（一橋大学大学院）

“Revenue Management for Customer Success” New11/12

第4報告 青木章通（専修大学）

「レベニューマネジメントの効果的実施のための顧客管理会計の役割」

第5報告 浅石梨沙（西武文理大学）

「レベニュー・マネジメント研究における

プライシング・ケイパビリティ概念の意義」

自由論題終了後、昨日欠席の青木章道氏（専修大学）に、論文賞の賞状が授与された。また、主催校から来年度の全国大会が6月に国土館大学で実施予定のこと、並びに、本年度最後の研究会を3月に近畿大学で実施予定がアナウンスされた。大会参加人数が、25名であったこと、少人数ながら活発な議論がなされたことに感謝の意が述べられ、無事に閉会した。